

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

社会に貢献する共創力をみがく（主体性・寛容性・探究心を養い共にによりよく生きる力を育む）

- 国際社会の様々な人や組織と共に活躍できるよう、多様な国際交流プログラムを提供し、英語力の向上と国際理解の習得に取り組むと同時に社会の課題を発見し解決できる人材を育てる学校。
- 子どもたちの多様な才能を共に見つけ、更に伸ばし、それが生かせる未来を創造できる多様性のある教育システムを提供する学校。
- 常により先進的な教育プログラムと学校運営のスタイルを提供できる学校として、府民とその子どもたちの信託に応える学校。

### 2 中期的目標

#### 1. 学力向上

- 基礎学力の定着と向上を全教員の目標とし、授業改善に取り組み、更なる授業力向上に努める。
- 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間のバランスを考え、自己の時間管理をすることで、授業外での学習時間数を向上させる。
- 各自がめざすべき進路に合わせ、計画的に学力の定着と個性の伸長を図る。
- ICTの活用などにより、コロナ禍においても学習を途切れさせることなく、着実に教育が届く環境を整える。
- 学校教育自己診断を活用し、全教員の授業力の分析を行う。
- 中学ならびに高校1・2年生の英語において習熟度別授業を行う。

※教育産業が提供する外部評価基準（GTZ）において令和7年度にはCDゾーンを10%以下にする。（R3：11%、R4：8%）

※授業満足度調査において令和7年度には80%以上の肯定的な回答を獲得する。（R4：80.1%）

#### 2. IB ワールドスクールとして高校に繋がる IB 教育・探究学習を推進する

- 「総合的な学習の時間」で全生徒に対し探究学習「クリエイティブラーニング」を実施し、論理的思考力及び批判的思考力を育成する。
- 中学校から「IBの学習者像」を授業やHRの中で取り上げ、IBに対する関心を高めていく。
- IB教員が国際バカロレア（IB）コース以外の授業を一部担当し、IB教育の手法にて授業を展開する。
- 教員とIBのコアであるATL（Approaches to teaching and learning：学習のアプローチ）を研修にて確認し、生徒の学習態度を向上させる。
- IB理解を深めるために中学生向けのIB説明会を充実させる。
- 基礎学力、英語力の向上ならびに探究授業の充実、海外大学進学説明会を実施し、IBコースに進む生徒の育成を行う。

※外部評価基準の課題発見テスト標準レベルにおいて、中学卒業時に\*B1レベルに達する生徒割合を令和7年度には87%以上にする（R3：85%、R4：43%）

\*A1→A2→B1と数値が上がり、基礎段階の学習者から自立した学習者へと変化する。

#### 3. 個性を見つけ、可能性を伸ばす

- キャリア教育を中学1年から段階的に進め、各自の個性、能力を認識させる機会を作る。
- 英語教育や国際理解教育の機会を充実し、英語への興味関心を高めると同時に、英語4技能5領域を総合的に学習し、発信力を向上させる。
- 運営管理者（学校法人大阪YMCA）の多様な国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。（コロナ後）
- 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。進路実現に向けた実績となる活動（検定、コンテスト参加、ボランティア活動）を促進する。
- 外部講師を招いた各種講演会や研修会を開催し、生徒各自の興味の方向性を理解させ、自身の意見を述べる態度を育成する。
- 本校の教育の特色を大学入学後さらに伸ばしてもらえらる中学校・高校・大学連続した教育の仕組みづくりに着手する。

※英語のCEFR目標 <CEFR A1＝英検3級、A2＝英検準2級、B1＝英検2級、B2＝英検準1級>

中学1年時 CEFR	中学2年時 CEFR	中学卒業時 CEFR
A1 100%	A1 100% / A2 30%	A2 100% / B1 10%

※令和7年度には全生徒が年1回以上の大会・コンテストに出場する。（R4：全生徒の8%）

※令和7年度には国際コンテスト・大会の出場者を年間5名以上出す。（R4：0名）

※令和7年度には海外研修旅行の実施を年に2回以上行う。またその参加者合計数20名以上とする。（コロナ後）（R4：0回）

※令和7年度には外国からの教育旅行・インターンの受け入れを年間30名以上受け入れる。（コロナ後）（R4：0名）

※令和7年度には交換留学（姉妹校）の提携を3校以上にする。（コロナ後）（R4：0校）

#### 4. 生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う

- 生徒主体による「生徒の行動規範（suito Model）」づくりを通じて社会の一員として通用する責任感・基礎的スキルの土台作りを行う。生徒一人ひとりの個性を大切にするとともに、自律した一人の社会人としての責任ある行動、思いやりのある行動を定着させる。
- 個別に支援が必要な生徒への対応については、校内の特別支援委員会を中心に、きめ細やかな運用を行う。
- 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する。
- 生徒会/GAPS（Global Action Project in suito）活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。
- 新型コロナウイルス感染症に関しては「子どもの安心・安全の確保」「学びの保障」「人権尊重の教育の推進」「教職員の負担軽減」の4観点を踏まえ、長期的な対応に努める。
- 特に支援を要する生徒・保護者についてはカウンセラーを活用すると同時に「支援チーム」を立ち上げ、個別のケースに対応した教育・生活指導を行う。
- SUITO MODEL PROJECT（生徒の行動規範）の策定を行うにあたり下記の点を強く意識して指導する。
  - 希望をもって共に生きる社会の実現をめざした学校をつくる。（YMCAの基本理念）
  - 例）ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努める。
  - 未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につける。（IBの基本理念）
  - 社会が求める資質・能力を身につける。（経済産業省「社会人基礎力」）
- 災害や事故に備えて、マニュアル整備や情報提供システムを整備し、実効性のある危機管理体制を確立する。

- (9) 学校教育自己診断を活用し、学校の教育力分析を行っていく。  
 (10) LHR の特別授業を用い「いじめについて考える日」「YMCA の取り組むピンクシャツデー」「制服を通して LGBTQ を考える」人権意識を高める。  
 (11) 生徒に対して SNS/ネット安全教育を 1 回実施し、情報リテラシーを高める。  
 (12) 教員に向けてヤングケアラーの理解について研修を 1 回行い、早期発見に努める。

※令和 7 年度には支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施率を 100%にする。(R4 : 100%)

※令和 7 年度には「自主的な活動が活発である」の肯定率を 90%以上にする。(R4 : 94%)

## 5. 進路指導を強化する

- (1) キャリア教育を行うと同時に、自らの進路目標を立てさせることを通して学習意欲を高める。  
 (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的な支援を行う。  
 (3) 進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。  
 (4) 中学校・高校・大学 10 年連続した教育システム構築のための連携校確保に向けた活動を開始する。  
 (5) 海外に姉妹校、連携校を確保し、海外進学志向の促進を図る。(コロナ後)  
 (6) 学校教育自己診断を用いて、学校の教育力分析を行っていく。  
 (7) 職業体験インターンシップを実施する(コロナ後)

※令和 7 年度には進路指導研修会を年間 3 回以上行う。(R4 : 0 回)

※令和 7 年度には海外大学進学説明会を年間 1 回以上行い、海外大学進学をめざす生徒の支援を行う。(R4 : 3 回)

## 6. 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

- (1) 各学年・分掌の長の責任と権限委譲を促進する事により、効果的かつ迅速な学校運営を行う。  
 (2) 若手や女性を積極的に登用し、管理職直轄で指導する事により、人材の育成を図る。  
 (3) 学校評議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。  
 (4) 役割と業務の明確化、責任分担により分かりやすく働きやすい職場環境づくりを進める。定時退勤率の計測を行う。  
 (5) 校内に研修担当を置き、計画的に教員の資質向上策を講じる。  
 (6) IB ワークショップへの参加、探究型の授業の強化のためファシリテーション研修やコーチング研修に参加する。  
 (7) ICT 研修を行い、オンライン授業においてグループ討議や双方向の授業メソッドの充実を図る。

## 7. 開かれた学校づくりを行う

- (1) 学校説明会及びパンフレット等の広報媒体を充実させる。  
 (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。  
 (3) 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。  
 (4) 学校の特色ある教育活動について幅広く情報発信をすることにより、小・中学生を含む地域の方々の本校への理解を深める。  
 (5) 校長と保護者が語る会を実施する。  
 (6) 2025 年大阪万博に向けて地域と連携し、世界に関わり地域に貢献する。  
 (7) ネイティブ教員が各地域の学校へ、本校生徒が小学校の探究クラスへ、本校教諭が大学への講義へ出前授業を行う。

※令和 7 年度には地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO 等)を巻き込んだ地域フォーラムを 20 団体以上の参加を得て開催する。(コロナ後)(R4 : 0 団体)

※令和 7 年度には教員による出前授業を年間 3 回行う。(R4 : 3 回, R5 : 3 回)

※令和 7 年度には教育委員会と連携し、本校の特徴的な取組についての教育研修を年間 2 回以上開催し、特徴ある教育手法を広げる。(R4 : 6 回)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校評議員からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 1 月実施分]	学校評議員からの意見
<p>回答率は、教師 93% (14/15)、生徒 29% (69/237)、保護者 57% (135/237) となった。</p> <p>結果について、「ややあてはまる」・「よくあてはまる」を肯定的、「あまりあてはまらない」・「あてはまらない」を否定的とみなし、評価する。</p> <p>① 教育活動・カリキュラムの面についての満足度は、教師 73%、保護者 70%、生徒 83% となった          全体的に ICT の活用については、ほぼ 90% 以上の肯定的な評価を得ている一方、教科間の相互の関わり合い(約 46%)については、中立的～否定的な結果となった。</p> <p>② 学校生活については、学校へ行くのが楽しいに対し、生徒 78%、保護者 78% が肯定的な解答となっている。学校行事などは、生徒の約 80% 以上の肯定的な意見がある反面、担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる、の項目では、39% と低くなっている。</p> <p>③ 進路指導については、生徒 74%、保護者 76% が肯定的にとらえられている。</p> <p>④ 学校全体としては、特色のある学校教育を実施しているという点においては、生徒・保護者より約 95% と肯定的な評価を得ている。          全体として、数値化すると 61% の満足度となっているが、その理由としては、「中立的」を選択している回答が多いことに起因していると考えられる。次年度に向けては、評価の高い点については維持しつつ、「中立的」の回答が多かった各種項目において、肯定的な回答を得られるよう、授業・試験・成績、学校行事、安全面、学校外のコミュニティとの関わりについて、改善していく必要がある。</p>	<p>第 1 回 (7/12)          ○R5 年度学校経営計画について          ・英語の CEFR 目標が達成されている事に関連して、評議員より英語力だけでなくプレゼン力も高まっており、引き続き自分を表現するスキルの向上に対して期待しているとの意見があった。          ・「7. 開かれた学校づくりを行う」の「(7) 2025 年大阪万博に向けて地域と連携し、世界に関わり地域に貢献する。」に対して、評議員より「ATC においても様々なイベントや展覧会、講演会を行っている。社会に開かれた学校への協力、探究教育の推進のため地域の方々や企業の方々とのネットワークングについてお手伝いをしていきたい。」との意見があった。</p> <p>第 2 回 (12/21)          ○R5 年度学校経営計画中間評価について          ・キャリア教育に関する報告を受けて、評議員より引き続き企業の方々や様々な経歴を持つ方の特別講義を持つ機会を増やし、より深く生徒自身の将来を考える機会を設けてほしいとの意見があった。          ・海外研修旅行に関する報告を受けて、評議員より大学での海外インターンシップが増えている現状の報告と、大学での海外共同研究をスムーズに行うためには、高校時代からの語学の研鑽は必須であるとの助言があった。          ・国際交流に関する報告を受けて、評議員より万博開幕まであと 1 年になり、ATC においても国際交流に関する企画を行っていく予定なので、情報提供と共に協働を行ってほしいという意見があった。          ・開かれた学校づくりの報告を受けて評議員より、生徒が英語の授業を小学校で展開したりする等の学校交流を通してお互いに刺激を与えあえる関係づくりを行ってほしいとの意見があった。</p> <p>第 3 回 (3/14)          ○R5 年度学校経営計画の年度評価について          ・評議員より学校経営計画の中身や評価内容を、保護者にも学校の取組を理解してもらえよう積極的に発信すべきとの意見があった。今後、期待に応える形で保護者会等</p>

## 府立水都国際中学校

	<p>での連携強化に向けて取り組む旨の回答を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員より地域連携に関しては地域の学校ともより連携を行い、新たな形の教育に関する学びを深めたいとの意見があった。</li> <li>・評議員より地域の様々な場所で活動の場が広がっている事を評価しており、これからより取組を進めてもらいたいとの意見があった。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
学力向上	<p>(1) 授業改善に取り組み、更なる授業力向上に努める</p> <p>(2) スケジュール管理等による授業外学習時間の向上</p> <p>(3) めざすべき進路にあわせ、計画的に学力の定着と個性の伸長を図る</p>	<p>(1) 授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。</p> <p>(2) 各教科の1週間における授業外学習時間の目標を示し、自己のスケジュールを管理させる。</p> <p>(3) 進路情報をホームルームにおいて生徒・保護者に発信する。</p>	<p>(1) 授業満足度調査において80%以上の肯定的な回答を獲得する。[82.7%]</p> <p>(2) 授業外学習時間の中学校平均を平日1時間半以上とする[54分] 休日2時間以上とする[1時間44分]</p> <p>(3) 進路情報を生徒・保護者に年間3回発信する。[3回]</p>	<p>(1) いずれの教科も80%を超える満足度を得ており、いくつかの教科は90%を大きく超えるものもある。生徒の授業に対する満足度は高い。(◎)</p> <p>(2) 目標値の達成までには隔たりがあるので、引き続きスケジュール管理を徹底するように指導を行う。(△)</p> <p>(3) 学習支援クラウドサービスを通じて、課外活動、コンテスト関連など、多くの情報を周知できた。保護者に対しては、ホームページなどを通じて、より情報を発信していく。(○)</p>
IB教育を推進する	<p>(1) 「総合的な学習の時間」で全生徒に対しクリエイティブラーニングを実施し、論理的思考力及び批判的思考力を育成する。</p> <p>(2) 「IBの学習者像」の啓発を行う。</p> <p>(3) IB理解を深めるために高校1年次のIB説明会を充実させる。</p>	<p>(1) 外部評価基準の課題発見テストのレベル強化を行う。特に記述試験において「意見構築力」が他の項目よりも弱くなっているため、各授業においてプレゼンテーション形式の課題だけでなく、その意見をより論理的に文字におこす練習と課題を行う。</p> <p>(2) 「IBの学習者像」の啓発をHRにて行う。</p> <p>(3) IB説明会を中学生対象に行う。</p>	<p>(1) 外部評価基準の課題発見テスト標準レベルにおいて、中学卒業時に*B1レベルに達する生徒の割合を50%にする[59%]</p> <p>(2) ホームルームや授業内に「IBの学習者像」の発信を対象学年において年間3回行う。[3回]</p> <p>(3) IB説明会を中学生対象に年間1回行う。[2回]</p>	<p>(1) 昨年度未達であった目標を達成できた。現状の数値を最低限維持していくことを前提に、これからは、この数値が大学進学とどのような相関があるのかをみていく必要があると考える。(○)</p> <p>(2) 総合的な学習の時間において「IBの学習者像」を意識させる活動を実施(3回:各学年1回)(○)</p> <p>(3) 生徒全員対象説明会(1回、中3)、希望生徒・保護者対象の説明会(1回、中3)を実施し理解が進んだ。(○)</p>

## 府立水都国際中学校

個性を見つけて、そのスキルを伸ばす	<p>(1) キャリア教育を中学1年から段階的に進め、各自の個性、能力を認識させる機会を作る。</p> <p>(2) 英語教育や国際理解教育の機会を充実し、英語への興味関心を高めると同時に、英語4技能5領域を総合的に学習し、発信力を向上させる。</p> <p>(3) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。進路実現に向けた実績となりうる活動（検定、コンテスト参加、ボランティア活動）を促進する。</p> <p>(4) 探究授業を通して、生徒各自の興味の方向性を理解させ、自身の意見を述べる態度を育成する。</p>	<p>(1) 中学1年：自己分析、中学2年：ゲストスピーカーによる職業講話、中学3年：大学進学に関する講話等、それぞれの発達段階に応じたキャリア教育を行う。</p> <p>(2) 英文の多読プログラム展開、ランゲージセンター（昼休み・放課後の英語を使う時間）の設定を行い英語への興味関心を高める。</p> <p>(3) 各教科会にてコンテスト等を1つ定め、英語弁論大会や WWL（ワールドワイドラーニング）の大会に出場する。そして各教科内での役割分担としてコンテスト担当教員を決め、コンテスト選定、紹介、生徒への奨励・選抜を行っていく。</p> <p>(4) 探究授業の中で中間発表、成果発表を実施する。</p>	<p>(1) キャリア教育に関する取組みを年間2回行う。[2回]</p> <p>(2) 以下の英語の CEFR 目標を達成する。          中学1年：A1 100%          中学2年：A1 100%、A2 80%          中学3年：A2 100%、B1 30%          [R5：          中学1年：A1 99%          中学2年：A1 100%、A2 93%          中学3年：A2 95%、B1 25%]</p> <p>(3) 年1回以上の大会・コンテストに出場者を全生徒の10%にする。[100%]</p> <p>(4) 生徒によるプレゼンテーション開催を年2回以上行う。[2回]</p>	<p>(1) Holland Code を利用した職業選択講習や、複数の教員による海外留学講話などを行った。中学生から、高校1・2年生でのコース・科目選択について尋ねられることが増えた。水都国際でどのようなカリキュラムがあるのか、進路を自分事として捉えるようになった生徒が増えた。(○)</p> <p>(2) 中学3年生の結果に関しては、やや目標値を下回った。TOEFL Jr の受験者数は昨年より増加しており、最上位層に関しては増加している。(△)</p> <p>(3) コンテストの参加率に関して、作文コンクールなど、授業の一環としてコンテストに参加したため、100%の参加率となった。(◎)</p> <p>(4) 本の紹介や数学の魅力を伝えるプレゼンテーションを行った。(○)</p>
生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う	<p>(1) 生徒主体による「生徒の行動規範 (suite Model)」づくりを通じて社会の一員として通用する責任感・基礎的スキルの土台作りを行う。</p> <p>(2) 個別に支援が必要な生徒への対応については、校内の特別支援委員会を中心に、きめ細やかな運用を行う。</p> <p>(3) 生徒会/GAPS 活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。</p> <p>(4) 様々な取り組みの中で、人権意識を高める。</p>	<p>(1) suite Model の作成を行い、その後啓発のための取組みを生徒と共に行う。</p> <p>(2) スペシャルニーズコミッティーの活動を通して、支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施を行う。</p> <p>(3) 体育祭、文化祭、GAPS 活動、ボランティア活動において生徒が活動目標、内容を決定し、より主体的に活動を進める。</p> <p>(4) LHR の特別授業を用い「いじめについて考える日」「YMCA の取り組むピンクシャツデー」「制服を通してLGBTQ を考える」を実施する。</p>	<p>(1) suite Model の作成を行い、教員研修を2回行う。[2回]</p> <p>(2) 支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成実施率を100%にする。[100%]</p> <p>(3) 「自主的な活動が活発である」の肯定率を90%にする。(新規) [73.5%]</p> <p>(4) 人権意識を高める取り組みを年3回行う。[3回]</p>	<p>(1) 教員研修を2回行った。今後も、人間関係づくりなどに活用していく。(○)</p> <p>(2) 支援を要する生徒に対して「個別の教育支援計画」の作成率は100%であった。引き続き取り組みを強化する(○)</p> <p>(3) 体育祭、文化祭については、80%を超える生徒が肯定的な回答になっている。生徒会とGAPSについては関わっている生徒によって大きく評価が異なっている。そのため、より学校規模で生徒会と、GAPS 活動について、体系的に取り組むことが必要である。(△)</p> <p>(4) 特別授業において人権意識を高める取り組みを年3回実施(○)</p>
進路指導を強化する	<p>(1) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的な支援を行う。</p> <p>(2) 海外進学志向の促進を図る。</p>	<p>(1) チャレンジテスト、外部模試、思考力課題発見テスト、TOEFL Primary、TOEFL Jr. を実施し、学習到達度を測定し、支援を行う。</p> <p>(2) 海外大学進学説明会、海外進学の個別面談、特別授業のグローバルデイにて海外の生活や勉強、働く事について授業を実施し、生徒の支援を行う。</p>	<p>(1) 教育産業が提供する外部評価基準 (GTZ) において CD ゾーンを10%以下にする。[6%]</p> <p>(2) 海外大学進学説明会を年間3回行い、海外大学進学をめざす生徒の支援を行う。[3回]</p>	<p>(1) 昨年よりも高い数値で目標を達成している。CD ゾーンに属している生徒情報とこれからの対策を共有することで、学校として一貫性のあるフォローアップができた結果であると考えられる。(◎)</p> <p>(2) 指標通り、生徒の視野と選択肢を広げるキャリアガイダンスを行うことができた。(○)</p>
校務整理と人材育	<p>(1) 役割と業務の明確化、責任分担により分かりやすく働きやすい職場環境づくりを進める。</p>	<p>(1) ア 役割に応じた主任主導の0JTを進める。</p>	<p>(1) ア 校務に関する研修に3名の教師を参加させる。[14名]</p>	<p>(1) ア 研修14名参加により役割の理解を推進できた。組織作りに活かすよう体制を作っていく。(◎)</p>

## 府立水都国際中学校

成を 図り、 教育 効果 の高 い学 校運 営を 行う	<p>(2) オンライン授業においてグル ープ討議や双方向の授業メソ ッドの充実を図る。</p> <p>(3) 役割と業務の明確化、責任分 担により分かりやすく働きや すい職場環境づくりを進め る。</p>	<p>イ IBワークショップへの参加、探究型の授業の強 化のためファシリテーション研修やコーチング研 修に参加する。</p> <p>(2) ICT 研修を行い双方向授業やグループワーク等のオ ンライン授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 勤怠管理システムの導入を行う。</p>	<p>イ 探究型の授業に関する研修に 5名の教師を参加させる。[9名]</p> <p>(2) 双方向授業やグループワーク等の ICT 研修を年2回行う。[2回]</p> <p>(3) 定時退勤率の計測を行う[未計測]</p>	<p>イ 研修28名の参加により教員の 資質アップとなった。本校の教育 活動により還元していくことが望 まれる(◎)</p> <p>(2) 技術的な ICT 研修を2回実施し た。コロナ禍での完全オンライン 授業のニーズは減ってきている が、一部オンラインを取り入れた ような、より双方向授業の実現に 向けた ICT 研修を実施していき たい。(○)</p> <p>(3) 全職員の職務分掌の整備及び、出 退勤管理のデジタル化実施(シス テムは未導入)定時退勤率の管理 は管理職の現認にて実施の為、数 値化されていない。(△)</p>
開か れた 学校 づく りを行 う	<p>(1) 地域や保護者の声を聞き取る 仕組み作りを行い、教育に反 映させる。</p> <p>(2) 学校の特色ある教育活動につ いて幅広く情報発信をすること により、中学生を含む地域の 方々に本校の理解を深めて もらう。</p>	<p>(1) 校長と保護者が語る会を行う。 その中で本校の課外活動に関 する方向を説明する。</p> <p>(2) ア ネイティブ教員が各地域の学校へ、本校生徒が 小学校の探究クラスへ、本校教諭が大学への講義 等の出前授業を実施する。</p> <p>イ 教育委員会と連携し、本校の特徴的な取組みに ついての教育研修と研修動画作成を実施する。</p>	<p>(1) 校長と保護者が語る会を1回行 う。[1回]</p> <p>(2) ア 教員による出前授業を年間3 回行う。[3回]</p> <p>イ 本校の特徴的な取組について の教育研修を年間2回開催する。 [2回]</p>	<p>(1) 学校全体保護者会という形で、12 月9日に実施。課外活動のみなら ず、今後の教育活動に関する方向 性を説明。(○)</p> <p>(2) 3回行った。引き続き特色ある教 育活動の理解を広げていく。 (○)</p> <p>イ 今年度は該当する研修は2回 にとどまった。一方、多数の本校 視察(12回)があり、その多くが 本校を知るための研修的な側面が あり、包括的に、本校の教育実践 を広めていく場として捉えていき たい。(○)</p>